

応用化学系の将来に向けて

応用化学系学系長 河 口 昭 義

今日、大学を騒がせている二つの外国語がある。一つは JABE (Japan Accreditation Board for Engineering Education) すなわち日本技術者認定機構と COE (Center of Excellence) (正確には「二十一世紀 COE プログラム」すなわち世界的教育研究拠点の形成のための重点的支援) である。前者は、技術士教育プログラムを修了した学生には、技術士第一次試験と同等の資格、すなわち「修習技術者」の資格を与えるためのものである。JABE を国際的に認定し、技術者を国際的に認定しようとするのが今の流れで、そのための大学教育が求められるようになってきた。われわれ応用化学系では、現在これへの対応をとってはいないが、教育カリキュラムの改革を含め、検討を迫られるときが来るであろう。後者の COE は、字句の通り、世界的な教育研究の拠点を形成のための資金的な支援を意味している。指定さ

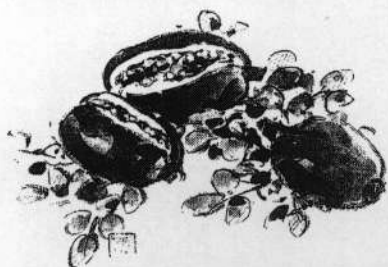
今では先端の研究をするのに必要な装置を手に入れることができ、世界に問える研究を進めることができるまでに充実した。理工学部の大規模施設の中には、日本の大学では珍しい小型放射光施設がある。設置当時ほどのようになると不安はあったが、応用化学系の先生を含め、理工学部の先生方の努力で、この装置でしかできない研究について順調に成果を上げてきており、この施設が注目されるようになった。

応用化学系では、平成十二年に化学生物工学科が、平成十三年に応用化学系が、教育環境・方針研究施設さらには研究業績についての外部評価を受け、評価委員の方々からは好意的な評価を得た。外部評価の結果、機器・施設の整備状況から COE に名乗りを上げることが可能な状況が整ったと思えるようになった。しかし、施設は整ってきたものの、人材育成の面で必ずしも十分と言えない現状がある。教育面の展開、施設のさらなる拡充を念頭において、本学理工学部の特色の一つである小型放射光施設を拠点のシンボルとして、応用化学は「化学・材料化学」、

化学生物工学科は「生命科学」分野で「二十一世紀 COE プログラム」の拠点となるべく、これに申請をした。各分野合わせて四百六十余ものグループからの申請があるとのことであるが、われわれがそれぞれの分野でその一つに選ばれることを願っています。前総長時代に、意味合いは異なるが、理工学部をマサチューセッツ工科大学並みにすることを指すとして、COE という言葉がしばしば言われてきたことを思い出す。今回の申請の結果が何れであれ、本学応用化学系は COE に相応しい学科に成長してきたことを応化会会員の皆様にはご理解願いたい。これからも、われわれは改革に向けて更なる努力を惜しまない積りであり、会員の皆様には今後ともご支援をお願いする次第である。

たのである。JABE を国際的に認定し、技術者を国際的に認定しようとするのが今の流れで、そのための大学教育が求められるようになってきた。われわれ応用化学系では、現在これへの対応をとってはいないが、教育カリキュラムの改革を含め、検討を迫られるときが来るであろう。後者の COE は、字句の通り、世界的な教育研究の拠点を形成のための資金的な支援を意味している。指定さ

私が本学に赴任したのは一九九四年で、この年は BKC が発足した年である。その時点では、私の研究室にはほとんど設備がなくて、COE などということも口にするのも憚られる状態であった。当時卒業研究を行った学生諸君には気の毒であったと思い返される。以来、九年余りが経過し、その間、応用化学系の総ての先生は、研究設備の充実のために涙ぐましい努力をしてこられた。科学研究費、ハイテク資金その他の資金を得て、



地域別活動推進委員会 の活動状況について

応化会副会長

地域別活動推進委員会

委員長 三 上 正 勝
(昭和三十七年卒)



ます。更に、外観ばかりでなく産・三十三)をお願いし、実行委員に
官界、学会、一般社会での評価も
大いに高まり、入学志願者数も躍
進していることはご承知と思いま
す。この素晴らしい母校の知名度
を一層向上させ、この大学で学ん
だことを誇れる存在とするため、
応化会の活動を一層充実すべきと
考えています。

応化会のさらなる発展を目指し
て、田村会長のもとでの企画運営
に参画し、その実現に協力して行
きたいと考えています。その手始
めとして、田村会長の提案である、
全国各地に在住する応化会同窓生
の交流をさらに密にすべく、地域
別活動事業を強化し、将来的には
支部活動の基盤作りを進めること
が幹事会、総会で承認されました。

平成十三年五月二十六日に開催
された二〇〇一年度第一回幹事会
で、私が地域別活動推進委員会の
委員長に任命され、谷口・立木両
副会長、篠原・松尾両常任幹事・
松田庶務幹事を委員として委嘱し
て、その準備を進めてきました。

第一弾として、関東地区懇話会
・懇親会(仮称)の準備会を、平
成十四年三月二十六日(火)に東
京で行い、実行委員長に芦崎氏(昭
和(平十二)の各氏をお願いし、この
準備に取りかかっています。開催
日時は、平成十四年十一月九日
(土)午後の予定です。

前段にも書きましたように、わ
れらが母校立命館大学がどのよう
な発展をし、社会や学会でどのよ
うな評価を得ているか、恩師、そ
の後輩で研究室でご活躍の先生方
と親しく対話をしたり、産学協同
の実状や私たちが抱える社会にお
ける課題を議論したりする場を期
待しております。その他の企画に
ついては、実行委員会で行われて
いますが、応化会にふさわしい内
容で行いたいと思っています。

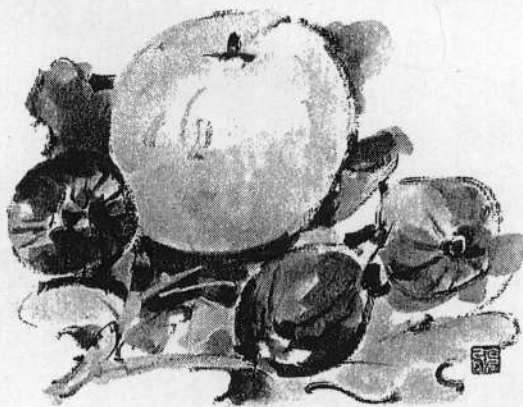
次に東海地区懇話会・懇親会
(仮称)であります。来年(平
成十五年二月ころ)の開催予定で、
先ず実行委員長依頼から始めて実
行に移してゆきます。平成十四年

過去の同窓会活動は、それぞれの
出身研究室、卒業年度生が核とな
った集団を中心に運営されてきま
したが、これからの同窓会活動の
基盤は、大学(学校法人)、先生
方(教職員)、卒業生、在校生を
視野に入れた全体的なつながりを
持つ組織としての位置付けが必要
であります。理工学部同窓会連絡
協議会が結成されたことは、応化
会の活動を通じて、単に応化会卒
業生としてではなく立命館大学理
工学部卒業生として広く社会にア
ピールしていくことが可能になっ
た点で、大きな意義があると思ひ
ます。

現在、立命館大学は、びわこ・
くさつキャンパスと、衣笠キャン
パスからなり、いずれも素晴らし
い施設が整えられ、キャンパスラ
イフを満喫できる環境が整ってい

平成十一年一月、理工学部創立
六十周年記念校友大会の開催を契
機に理工学部同窓会連絡協議会が
結成され、理工学部全体の同窓会
組織として、学系、地域、年代を
越えて、より広く積極的な活動が
行われる体制になりました。

平成十三年六月十七日に開催さ
れた第七回応化会総会において承
認された応化会年会費納入方法の
一部変更、すなわち平成十二年度
以降の新卒業生から適用の終身会
費制の新システムも連絡協議会が
理工学部全体を纏めて実施する事
により導入が可能となりました。



立命館大学 写真研究会OB会の活動

黒田 豊
(昭和三十一年卒)

昭和二十五年に理工学部の写真に興味を持つ学生たちが衣笠学舎で活動できるよう考えた、若き技術者の卵は学友会第一学術部内に写真研究会を創設して五十二年の時が流れました。

創設期、立命館大学には広小路学舎に学ぶ学生が集い作品創りを目的に活動する「写真部」と、衣

笠学舎の、写真を科学しながら作品も創ろうとする「写真研究会」の二つのサークルが誕生し、この流れが今も続いています。

平成五年、校友会のご好意で理工学部の草津学舎への全面移転を記念する見学会に誘い合わせて参加した昭和三十年代のOB達が発起人となり、創設者の木村碩志氏

を会長に平成六年二月十一日、立命館大学写真研究会OB会を「親睦を第一義」に発足させ来年は十周年を迎えます。

発足当初の二、三年は、年一回開催する総会で途絶えていた旧交をよみがえらせたり、草津学舎・理工学部の最新設備を見学し隔世の感のある木造の実験室や暗室を懐古し語り合ったり、現役の若い写真研究会会員の開催する写真展での交流を楽しんでいました。

昭和三十年代の始めに当時の関西学生写真連盟のリーダーとして活動していた関大、関学、同大、立命大の写真サークル活動にしていた仲間たちOBが作品を持ち寄る写真展「関・関・同・立・OB写真展」を開催することになり参加したことをきっかけに平成十一年二月に京都の四条河原町で、第一回・立命館大学写真研究会OB会・写真展を開催しました。写真展の会期中に開催した第六回総会で簡潔な会則を設けて、同窓会的な活動から多少組織的に活動することにした現況と将来の構想を簡単に紹介いたします。

会長、代表幹事、会計幹事、事務局長を含む十二名の幹事会で年度活動計画を企画・検討立案し、定例総会出席者の賛同を得て決定し会員に発表します。活動計画は写真展関連の行事として、七月中旬に作品検討会、十一月上旬に作品選定会、十一月下旬に展示方法を

含む写真展に出展する作品を決定する幹事会を経て、事務局と幹事の

一部が協力し翌年の二月に写真展を、その会期中に定例総会を開催します。

カメラハイクと呼ぶ行事は近畿圏在住の会員と応化会の会員を含む友人をゲストとして迎えて三十九名程度が集い春と秋に年・二回景勝地や社寺・公園を楽しく歩いて探訪する会合を開催しています。

これらの会合の都度会食して懇親を深めるように心がけるとともに、現役の写真研究会幹部二、三名を招待して後輩会員とも交流し、現役会員の写真展開催や学園祭の企画などにもアドバイスや支援を実施しています。

今までに開催した第二回・第三回写真展では「テーマを設けて取り組み、展示方法も工夫したユニークな好ましい写真展だ」とご覧いただいた多くの方から励ましの

今後の課題としては未登録の会

お言葉を頂戴しています。

写真研究会に毎年入会する人たちの数から類推すると立命館大学写真研究会・OB会の会員資格者は(写真研究会会員であった卒業名簿に記載されている人)八百名程度かと思われませんが、現在消息を把握できた会員は百八十名です。六十才の定年を越えて人生の余暇を楽しめるようになった人は五十名弱でOB会活動に常時参加できる人は三十名程度です。会員は北海道から九州まで全国に散らばっているため、写真展と定例総会の案内と定例総会で決定した年間活動計画は全員に通知し、カメラハイクや写真展関連の通知は行事への参加可能性を判断し発信しています。

OB会活動は行事への参加者の負担する会費にて運営しているため、通信連絡費にまで効率的な工夫をしています。写真展の材料費を始めとする諸費用は種々の情報を活用して参加者の負担を軽減するよう努めています。また新しい技術や機器に対しての情報交流も活発に行っています。

今後

2001年11月18日(日) 2001年 秋のカメラハイク 於・金剛輪寺山門前



2002年2月24日(日) 第九回 定例総会 於・木屋町御池

2002年2月24日(日) 第九回 定例総会 於・木屋町御池

2002年2月24日(日) 第九回 定例総会 於・木屋町御池

2002年2月24日(日) 第九回 定例総会 於・木屋町御池

2002年2月24日(日) 第九回 定例総会 於・木屋町御池

員を捜すこと、会合への参加率を

向上させ、より活発な活動を展開
するためにOB会のインターネッ
ト・ホームページの開設を実現し
会員相互の交流にも活用したいと
思っております。

立命館大学写真研究会OB会が
誇れること、それは会合に全国か
ら集う会員は和気あいあい、別け
隔てなく、旧交を温めあっている
ことです。

平成十五年二月二十日(木) 一
層の親睦を計るため趣味の会活
動を始めたとき、写真の愛好者は
三条上る西側ムツミ堂八階フォト
ギャラリーにてOB会発足十周年
記念写真展を開催いたしますから
お立ち寄りいただきたく存じます。
催されますが正会員の皆さんの暖
雑然とした紹介になりましたが、
OB会発足十周年記念写真展の開
催をお知らせして我々OB会の活
動状況のご報告とさせていただきます
ました。

(お願い、立命館大学写真研究会
OB会からの連絡受信無き会員様
はご連絡下さい。)

連絡先 六〇五-〇八二二

京都市東山区上弁天町四四七

黒田 豊

TEL/FAX

〇七五-五六一一二四二四

写真で広がる出会いの場

岸 要

(昭和二十七年卒)

衣笠学舎に在学当時から写真研

究会会員の方々の組織に、立命館
大学写真研究会OB会があります。

平成十年、応化会が会員相互の

一層の親睦を計るため趣味の会活

動を始めたとき、写真の愛好者は
このOB会にゲストとして参加さ
せて戴くことになりました。

毎年春と秋にカメラハイクを開

催されますが正会員の皆さんの暖

かいお人柄に甘えて、私は全日本

写真連盟(全日写連)の親しい写

真仲間も数人誘ってお世話になっ

ています。

二年前、私は全日写連京都府本

部に入会しましたが、傘下の新ク

ラブ「さわやか27」の代表・事務

局を預かることになりました。新

参のクラブですが発足以来順調に

発展して会員数は現在約三十名、

京都府本部内で最大のクラブにな

りました。

今、「さわやか27」には立命大

出身者が私のほかに二人います。

小林縫三さん 理工・土木 昭

二十九年卒

北川良子さん 文学部 昭四十

五年卒

会員の十パーセントが立命大出身
と言え、これはもう大学閥です。

このお二人には同窓の誼みで、ク

ラブ活動にいろいろとお力添えを

戴いています。

全日写連の会員に、写真研究会

OB会カメラハイクでお馴染みの

岡本朗さん、杉本英夫さんたちが

おられます。

今年六月春のカメラハイク梅宮

大社・天龍寺探訪に三人の仲間を

誘って参加しました。その一人、

大野正子さんは初参加なのにOB

会の木村賀勇さん(昭三十三年

卒)と親しげに話しています。聞

けば、木村さんは大野さんの従姉

妹さんのご主人で、お二人とも思

うことでした。

七月に全日写連京都府本部で年
一度の総合写真展「京都写真サロ

ン」「京都府本部展」がそれぞれ

京都市美術館別館および京都府立

文化芸術会館で催されました。

多く同窓の方々にご来場戴きま

した。岡本さんや黒田さん、それ

に私と同期の級友宇野光造さん、

中森恒雄さんたち。ぐっと若い後

輩は昨年院卒の山田修司さん、来

春院卒予定の馬場由実子さん、こ

のお二人は私の元勤務先三洋化成
工業の奨学金制度を受験される際、

担当教授のご依頼で事前に少し会

社の概況など話させて戴いたご縁

です。

真打ちの出番は最後と申します。

白石教授ご家族、中村教授ご夫妻、

さらに、元理工学部部長鈴木啓三名

誉教授の諸先生方にもご来駕戴き

ました。

写真を通じて、諸先生方始め多

くの方々にご交誼を戴き本当に嬉

しく感謝しています。

写真に関心をお持ちの方は応化

会事務局にご連絡下さい。

電話〇七七-五六一一二六五八

企画運営委員会報告

東 正弘

(昭和四十一年卒)

応化会・企画運営委員会は、平

成十年より活動を始め、今年で五

年目となります。応化会ニュース

および総会などで活動報告をさせ

て頂いていますので、皆様ご存じ

のことと思います。応化会会員の
親睦を目的としてゴルフ・山歩き・

写真の趣味をお持ちの方々がそれ

ぞれ年二回集い、楽しく親密な交

友関係が出来ています。

ゴルフ・山歩き・写真の趣味を

お持ちの方は、応化会事務局(武

藤さん)へ登録頂ければ開催のご

案内を致します。

事務局電話

〇七七(五六一一)二六五八

FAX

〇七七(五六一一)二六五九

第七回「ゴルフ懇親会」

平成十三年十月十三日

西村定氏(四十一年卒)が幹事と

なり、奈良白鳳カンツリークラブ

楽しい一日でした。

平成十三年十一月十日

川口士郎氏（四十年卒）をリーダーに、男性七名・女性一名の参加

者があり、六甲道前から六甲山に登り有馬温泉へ出て温泉で疲れを癒す事が出来ました。帰りは三宮へ出て「ピアレストラン」で反省会を行いました。

平成十四年三月九日

青山雅俊氏（四十年卒）が幹事となり、レークスワンカントリーで十二名の参加者があり、浦野利巳氏（五十二年卒）が優勝されました。

平成十四年五月十一日

篠原長政氏（四十三年卒）をリーダーに、男性十名、女性一名の参加者があり、貴生川駅から飯道山へ登り紫香楽宮跡を経て貴生川駅に戻って来ました。貴生川の「地ビールレストラン」で反省会を行

以上が恒例の行事報告ですが、応化会も平成十五年に二十周年を迎えます。この節目となる二十周年を皆様とどのようにしてお祝いし、懇親を深めるか当委員会でも検討しています。

母校・理工学部は、社会の変革に先駆け、素晴らしい躍進を遂げ各界から高い評価を受けていることは皆様もご存知のことと思いますが、応化会の諸行事にご参加して頂き、ぜひ一度変革している母校の姿を見て頂きたいものと思っています。

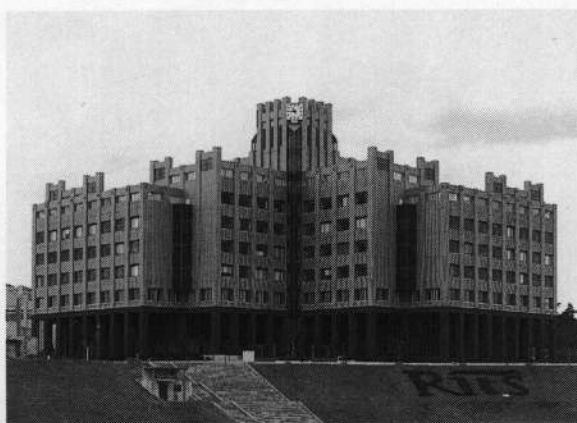
二十周年は平成十六年の総会開催時に、併せて盛大にお祝いすることにより五月二十五日の幹事会で決定しましたので、ご案内を申し上げます。折には万難を排しご参加頂きますようお願い申し上げます。



BKC案内

岡田 豊
(昭和五十四年卒)

一九九四年四月の理工学部移転に伴い開設されたびわこ・くさつキャンパス（BKＣ）は、その後理工学部関係でも“学術フロンティア共同研究センター”や“ローム記念館”等が建てられ、日を追って変化充実しています。しかし、最も大きく変化したのは、一九九八年四月の経済・経営学部の移転時です。



正門から入り歩いていくと、グブ
ティアアベニュー”、”セント
ルサーカス”を経て、”ウエス
タイング”に到達します。この
”に”コアステーション” ”イ
ーストウイング”が並んでい
るのは開設時のままで、 ”イ
ーストウイング”の六階に応
用化学系の事務室があるのも
変わりありません。

る ”アクロスウイング”です。これ
に加えて次の各所に機能的な新
改築が行われました。 ”アクロス
ウイング”には前述の ”セントラ
ルサーカス” からも道が通じてお
り、 ”ビュートストリート” なる
名前がついています。 ”ビュート
ストリート” から眺めて左手には
”アドセミナリオ”と ”コラーニ
ングハウス” という二つの教室棟

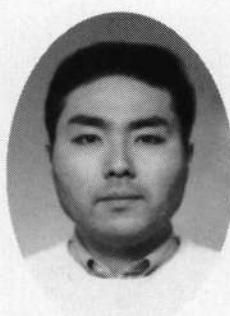
さて、話を「フロンティア
アベニュー」に戻します。そ
の右に「クインスタジアム
(グラウンド)」があるのも
開設時のままでしたが、大きく
変わったのは、その奥の時計
台のある象徴的な建物です。
経済・経営学部の基本棟であ
ります。



アドセミナリオ

応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学学科（旧化学科）と化学生物工学科（旧生物工学科）の二学科から成り、合わせて三十三名の教員が在籍しています。今年度は新しいスタッフとして、前田良輔助手と斧田宏明助手をお迎えしました。また、昇任人事に關しましては、今村信孝、久保幹、白石晴樹、玉置純の各先生が助教から教授に、溝口正先生が助手から講師に昇任されました。



前田良輔先生

新任の先生から一言

ありますが、諸先生方をはじめ、先輩諸氏のご指導、ご鞭撻を賜りながら精進する所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

略歴

一九九三年 同志社大学工学部化学工学科卒業

一九九五年 同志社大学大学院工学研究科工業化学専攻博士前期課程修了

一九九八年 同志社大学大学院工学研究科工業化学専攻博士後期課程修了博士（工学）取得

一九九八年～二〇〇〇年 ダイセル化学工業(株)勤務

る研究」を行ってきました。今後は、「高圧力下での酵素反応」ならびに「高圧力下におけるタンパク質の分光学的構造決定」という二大テーマにチャレンジし、タンパク質の機能と構造に関する興味深い知見を模索しながら、研究に取り組みたいと思っています。

また、様々な高圧力技術やタンパク質の分子レベルでの考え方といった、研究室の歴史と共に蓄積された重厚な知識の一端を日々勉強させて頂いております。立命館大学の教員として、甚だ未熟では



斧田宏明先生

本年四月より、応用化学科二号助手として就任いたしました。専門は無機材料化学で、種々の希土類リン酸塩の合成と物性に関する研究を行ってきました。加熱など

による脱水縮合や加水分解によって生成する希土類（縮合）リン酸塩を明らかにし、得られた塩について触媒的な物性を中心に評価してきました。また、これらの合成や物性に対するメカノケミカル効果についても検討してきました。

現在、遷移金属リン酸塩生成系に対し、希土類元素を加え、生成反応や物性に及ぼす影響を調べています。未熟者ではありますが、努力する所存ですので、今後とも

ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

二〇〇一年～二〇〇二年 同志社大学工学部物質化学工学科 博士研究員

二〇〇二年 立命館大学理工学部応用化学科二号助手

略歴

一九九七年 神戸大学工学部応用化学科卒業

一九九九年 神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程応用化学専攻修了

二〇〇二年 神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程分子集合科学専攻卒業 博士（工学）取得

二〇〇二年 立命館大学理工学部応用化学科二号助手

年会費納入への協力お願い

平成十四年度年会費（平成十五年三月三十一日迄）二千元を納入下さいますようお願い申し上げます。過年度分の会費の納入、未納入に關係なく平成十四年度分を納入下さい。

年会費は、会運営の柱です。全員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

会員の皆様の会費納入状況を同封しています。平成十四年度分と共に、過年度分の納入につきましてもご協力下さい。なお、平成十

一、十二、十三年度の完納者には、今回の名簿発行の際に無料配布の予定です。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

（注・平成十三年三月以降の卒業生は、終身会費制となっておりますので、年会費納入の必要はありません。）

事務局だより

応化会会員名簿

二〇〇三年版発行の予定

去る五月二十五日に開催された二〇〇二年度応化会第一回幹事会で、今回の応化会会員名簿は二〇〇三年版として平成十五年三月発行の予定になりました。

一層正確な名簿を皆様に提供出来るよう、事務局では鋭意作業を進めています。

住所、勤務先等消息変更のあった方は至急応化会事務局にお知らせ下さい。なお親しい方々の消息変更もお知らせ戴ければ幸いです。

応化会名誉会員

(敬称略)

石井 猛 岩崎 弘通 岡本 勇三 北村 清 木下 恭介 塩出 十一 鈴木 啓三 高橋 玲爾 竹内 良夫 立花 精 土屋 正夫 永井 外代士 橋谷 博 林 隆 林 隆俊 深海 浩 松田 二朗 三代 澤良明 山下 大二郎 山本 善史 渡辺 明

応化会役員名簿

(敬称略)

顧問		会長		副会長		常任幹事		庶務幹事		会計幹事		会計監査	
大原八十八	(30年卒)	吉田 巖	(27年卒)	田村弘三郎	(31年卒)	岸 要	(25年卒)	山田 修司	(平11年卒)	高木 一好	(平12年着任)	富田 耕一	(27年卒)
昭和十八年卒		三上 正勝	(37年卒)	谷口 吉弘	(40年卒)	香山 彰朗	(31年卒)	白石 晴樹	(47年卒)	花崎 知則	(平1年卒)	岡本 朗	(32年卒)
昭和十八年卒		立木 隆	(63年着任)	東 正弘	(41年卒)	松尾 篤治	(38年卒)	目片 康人	(61年卒)	久保 幹	(平8年着任)		
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	田口 肇	(62年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	小林 久人	(平2年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	目片 秀明	(平4年卒)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	山田 修司	(平11年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	松田 十四夫	(38年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						岸 要	(25年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						立木 隆	(63年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						香山 彰朗	(31年卒)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						松尾 篤治	(38年卒)	藤田 典久	(51年卒)				
昭和十八年卒						北尾 尚武	(41年卒)	岡田 豊	(54年卒)				
昭和十八年卒						中村 久雄	(平5年着任)	玉置 純	(平7年着任)				
昭和十八年卒						森崎 長政	(43年卒)	高木 一好	(平12年着任)				
昭和十八年卒						篠原 俊雄	(46年卒)	小島 一男	(52年卒)				
昭和十八年卒						木越 昭	(52年卒)	加藤 稔	(院62年卒)				
昭和十八年卒						前川 衛	(60年卒)	久保 幹	(平1年卒)				
昭和十八年卒						藤原 久雄	(平5年着任)	花崎 知則	(平1年卒)				
昭和十八年卒						篠崎 久雄	(平5年着任)	白石 晴樹	(47年卒)				
昭和十八年卒						中村 尚武	(41年卒)	岡田 豊	(54年卒)				

平成13年度（2001年度）事業報告

I. 諸事業

1) 徒行会の開催（本年度1回目）	2001年4月28日
2) 在校生への“会員名簿”配布	2001年5月
3) 懇親ゴルフの開催（本年度1回目）	2001年5月19日
4) 全会員への通信（総会案内）	2001年5月22日
5) 総会	2001年6月17日
6) “2001年3月卒業生名簿”作成	2001年9月
7) 応化会ニュースの発行	2001年10月
8) 全会員への通信（応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求他）	2001年10月
9) 懇親ゴルフの開催（本年度2回目）	2001年10月13日
10) 徒行会の開催（本年度2回目）	2001年11月10日
11) 懇親ゴルフの開催（本年度3回目）	2002年3月9日

II. 諸会議

1) 総会 第7回	2001年6月17日
2) 幹事会 第1回 第2回 (新年会)	2001年5月26日 2001年10月27日 2002年2月23日
3) 各種委員会 役員選考委員会 企画運営委員会 応化会ニュース編集委員会 名簿管理委員会 地域別活動推進委員会 (関東地区懇話会・懇親会(仮称)実行委員会)	2001年4月28日 2002年3月30日 2001年7月5日・9月10日 2001年10月27日 2002年3月26日

III. 在校生への援助活動

1) 研究室対抗ソフトボール大会	2001年10月28日
2) 応用化学系卒業・終了記念パーティー	2002年3月22日

IV. その他

1) 応化会ホームページの製作 (http://www.ritsumeai.ac.jp/se/rc/SECT-HP.html よりお入りください)	
---	--

平成13年度（2001年）応化会会計決算報告

一般会計

収入の部	予算額	執行額
前年度繰越金	1,608,620	1,608,620
会費(一般)	3,000,000	2,300,000
会費(学生)	2,200,000	2,190,000
寄付金	300,000	188,500
雑収入	5,000	541
合 計	7,113,620	6,217,661
支出の部	予算額	執行額
総会開催費	550,000	131,128
事業等補助金	200,000	104,093
会議費	200,000	128,659
印刷費	1,000,000	615,825
郵送費	2,000,000	1,242,960
人件費	500,000	491,000
事務局費	50,000	34,321
雑費	100,000	8,080
拠出金(特別会計へ)	1,000,000	1,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000	100,000
在学生活動援助費	200,000	200,000
振込手数料	100,000	59,339
予備費	1,113,620	0
合 計	7,113,620	4,115,405
次年度繰越金		2,102,256

特別会計

収入の部	予算額	執行額
前年度繰越金	3,955,052	3,955,052
拠出金	1,000,000	1,000,000
名簿売上(一般)	10,000	4,000
名簿売上(学生)	10,000	0
名簿荷造送料	10,000	2,000
名簿広告掲載料	0	0
雑収入	1,000	1
合 計	4,986,052	4,961,053
支出の部	予算額	執行額
名簿出版費	0	0
名簿荷造送料	50,000	0
人件費	500,000	185,000
事務局費	200,000	51,669
予備費	4,236,052	0
合 計	4,986,052	236,669
次年度繰越金		4,724,384

平成14年度（2002年度）事業計画（案）

I. 諸事業

1) 在校生への“会員名簿”配布	2002年4月
2) “2002年3月卒業生名簿”作成	2002年9月
3) 応化会ニュースの発行	2002年10月
4) 全会員への通信（応化会ニュース、新卒者名簿、年会費の請求他）	2002年10月
5) 関東地区懇親会	2002年11月9日
6) 東海地区懇親会	2003年2月
7) 名簿の発行	2003年3月
8) 徒行会の開催（1回：2002年5月11日、以降未定）	
9) 懇親ゴルフの開催	2002年11月7日

II. 諸会議

1) 幹事会 第1回 第2回	2002年5月23日 2002年10月
2) 各種委員会 企画運営委員会 応化会ニュース編集委員会 名簿管理委員会 地域別活動推進委員会	

III. 在校生への援助活動

1) 研究室対抗ソフトボール大会	2002年10or11月
2) 応用化学系卒業・終了記念パーティー	2003年3月22日

平成14年度（2002年度）応化会予算

一般会計

収入の部	予算額
前年度繰越金	2,102,256
会費(一般)	2,500,000
会費(学生)	2,200,000
寄付金	300,000
雑収入	5,000
合 計	7,107,256

支出の部	予算額
総会開催費	0
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	500,000
会議費	200,000
印刷費	1,000,000
郵送費	1,500,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
拠出金(特別会計へ)	2,000,000
拠出金(連絡協議会へ)	100,000
在学生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	657,256
合 計	7,107,256

特別会計

収入の部	予算額
前年度繰越金	4,724,384
拠出金	2,000,000
名簿売上	10,000
名簿荷造送料	10,000
雑収入	1,000
合 計	6,745,384

支出の部	予算額
名簿出版費	1,300,000
名簿荷造送料	50,000
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	4,695,384
合 計	6,745,384